

令和5年1月31日

教育部生涯学習課

「小樽市指定文化財」の新規指定について

●林家旧蔵アイヌ風俗画画稿

所蔵：小樽市総合博物館

年代：江戸末期～明治初期

江戸末期から明治初期（19世紀）に後志地方で暮らしたアイヌの人々や寿都周辺の地図などを描いた絵画及び解説文（詞書）を含む資料群である。資料点数は60点で、余市で漁場を経営した林家のゆかりの方から、平成16年に寄贈を受けたトランクの中に納められていた。作者は不詳であるが、描画の手法から幕末期の円山派の系統を引く者と見られ、描かれた絵の内容から、北後志周辺の海岸線を歩いていた人物と思われる。

30点余りのアイヌ風俗画は、実際のアイヌの生活を取材し、目に映るままにアイヌの人々の姿を描きとどめたスケッチであり、絵画として完成したものではないが、自然な表情や仕草、特にはつらつとした笑顔は、従来の定型的で異国風を強調したいわゆる「アイヌ絵」とは大きく異なっている。これだけまとまった数のアイヌ風俗画画稿の発見例は他にないことや、儀式の動作・道具の解説を添えた「詞書」の記載された資料もあり、その詳細を知ることができる点などからも、歴史学的・民族学的・美術史的に貴重な資料である。

なお本資料群にはアイヌ風俗以外をモチーフにした画稿も含まれるが、それらが作者や年代を特定する手がかりとなり、一体として保存することに価値があることから、一式として60点を指定する。

【画像】



39番 談笑図（部分）



57番 祝宴図